

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950880045		
法人名	医療法人 千歳会		
事業所名	グループホーム 甲西		
所在地	南アルプス市 田島 1105		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 17 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 2 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は介護老人保健施設・通所リハビリテーションが併設しており、広々とした環境にあります。また、医師や看護師による医療面での連携や、管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供をしておりますが、昨年より昼食は職員と利用者様で協力して調理を行い一緒に食事をしております。認知・身体機能の維持と低下の予防を目標に掲げ、毎日の体操や廊下の歩行を行い身体機能の維持に努め現在歩行器を使用される方はおりますが、全員が歩行できております。利用者様のリクエストに応じた調理レクや、おやつレクを毎月設けております。園芸レクでは、畑作業を行ったり、季節の花をプランターに植えて季節を感じ、コロナ禍でなかなか外出できませんが様々な行事を行うことで家庭的な雰囲気作りを心がけ、認知機能の低下の予防に努めております。利用者様と一緒に掃除を行い、常に気持ちよく過ごしていただけるよう環境整備を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症の進んだ利用者に見られる暴力行為や暴言に対して絶えず穏やかに対応されたり、利用者間のトラブルでも虐待や拘束することなく対応できる職員の支援力が優れていることを管理者より伺いました。清潔感を重視し、入浴支援はもとよりベットのパットの隔週交換を試み、清潔を保つようにしたこと、利用者の皮膚の状態が改善されたとのこと。利用者の希望を取り入れた食事のメニューが豊富に用意されています。季節の料理であるおでんやほうとう、おやつ作りなど利用者と一緒に楽しめる場面を設けています。入居時に看取りの介護はできないことを伝えると同時に、重度化された際の転居先の予約がなされており、利用者家族にとっての安心に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの理念をもとに、職員全員で意見を出し合いながら利用者様の尊厳や安全を守る事、またご家族や地域のかたとのつながりを大切にすることをわかりやすく具体化した理念を目の届く場所に貼って職員で共有している。	利用者にとって普通の生活の営みとしての食事の用意や洗濯物量、花の水やり等を自由に担っていただくという思いから「やすらぎと喜びのある毎日」を理念として掲げ、事務所やホールに掲示して日々確認しているとの話を管理者より伺いました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為、通常では田島地区のお祭りや獅子舞が施設に訪問したり、凧揚げ大会などの催しもあるがコロナ禍のため自粛されていることを自治会長様より伺っている。事業所からも、毎月の行事や利用者様のご様子について報告するなど地域の一員として交流をはかっている。	運営推進会議の資料を自治会長や民生委員に配布して、内容に対する返事を頂いているとのこと。まとめられた意見は家族の代表や市(地域包括)に報告しています。自治会長には推進会議の内容や事業所の様子(行事内容等)を報告しており、自治会長を経由して地域に知らせて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用して活かしている	日々の実践での認知症の方の理解や支援について、地域の方の相談やアドバイスができるようにしている。相談はいつでも対応ができる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり、運営推進会議が開催できないが書面で毎月の行事の様子やワクチン接種の情報をまとめて、ご家族様代表・田島地区自治会長様・民生委員の方に配布し、ご意見をいただいたものをまとめ2ヶ月に1回市町村担当者へ書類を送付し報告している。	運営推進会議の中で、事業所の指定避難場所が遠いことから、近くの工場の駐車場に変えることはできないか検討されました。事業所にとってはありがたい意見として、今後の運営に反映させていきたいとのこと。運営推進会議はコロナ禍の中で書面開催となっていました。事業所からは日々頑張っている様子を報告させていただいたとのこと。です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の内容を報告し、日ごろの取り組みや利用状況を報告している。	市に対しては事故や大変な事態に至った際の報告を迅速に行っているとのこと。家賃減額等の制度の内容については、対象になる利用者の手続きについての情報を提供していただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行わない旨を事業所内に掲示し、ご家族様にも説明を行っている。併設の施設と合同で代表者があつまり身体拘束についての会議を週1で開催しまとめた議事録を職員で読み込み共有を行っている。	事業所として「拘束をしない介護をする」を表明しています。併設のケアハウスと合同で身体拘束委員会を設け、職員に対してアンケートをとり、事例をあげての勉強会を開催しています。身体拘束に至った事例は生じていないが、やむを得ない場合の身体拘束時の対応マニュアルは整備されているとの話を伺いました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に基づき、上記身体拘束防止と合わせて虐待防止委員会を併設施設と合同で行い、日ごろの介護のなかで虐待になってしまう行いがあるかなどを職員から意見をまとめ会議を行い議事録を職員で読み込み共有を行ったり、虐待防止に向けての勉強会を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で権利擁護についての研修会を開き、職員に理解と周知徹底を図っている。「高齢者の思いに寄り添うケアを推進するための手引き」を身近な場所に置き常時職員が閲覧できるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時には時間を多く取り、細かい部分までご理解できるように丁寧に説明するよう心掛けている。疑問や、ご意見などがあれば遠慮なく仰っていただけるよう、お声掛けを行っている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と連絡をとり、利用者様の状況をお伝えするとともにご意見・ご要望などを伺い日々の運営に活かしている。また、日ごろから利用者様との会話の中でご意見を伺っている。	コロナ禍により面会ができていない為、電話等により意見を収集しています。認知症の進んだ利用者に対して、家族や主治医と話をし、認知症の行動の背景には理由があることを押さえて行動観察を行い、利用者との関係性を考え、ケアに反映させていることを管理者より伺いました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ミーティングを行い、職員の意見や要望を聞き出して業務に反映できるように取り組んでいる。また日ごろから職員一人一人から雑談などを交えながら意見を聞いたり、職員からの業務についての提案を受けるなどできるように風通しのよい環境作りを行っている。	ミーティング等から事業所内の清掃についての課題が提示されるが、勤務の中で対応することで解決されたとのことです。また、運動の方法についてもコロナ禍の状況で出来る方法として、廊下を歩いてもらうとの意見が出され運用されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績を把握するために定期的に業務などの振り返りのアンケートをとり、個々に面談を行い向上心ややりがいをを持って働けるように配慮されている。資格取得について勤務時間を考慮するなど応援体制も整っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアに実際と力量に応じて更に向上を目指すための研修を受ける機会の確保や、職場内でも勉強会の機会を持ち、経験の長い職員が他の職員に学習資料を配布し共に学んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通常であれば、同業者と共に認知症についての研究会などの機会を設けることがあったが、現在はコロナ禍なので、機会は少なくなっている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される段階でとても不安な状況なので、笑顔でいろんなお話をさせていただいてから困っていること、不安に感じていることを傾聴させて頂くように心掛けている。職員にも同じように笑顔で対応して頂きお話を聞くことができれば報告をしていただき全員で共有するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にお時間を頂きどのようなことにお困りであるのか？サービスについてご希望されていることなどをお伺いし、不安の軽減や望む暮らしができるように努めている。ご家族様に安心していただけるよう、初期は特に連絡をこまめにとりご様子をお伝えしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様からそれぞれに、これまでの生活や生活の中での困りごとなどのお話をお伺いし、その背景からどのようなサービスが必要であるかを職員も加わり検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみや、毎日の昼食作りなどの家事と一緒にいたり、朝、昼、夕の食事を一緒に頂いている。会話の中でも、暮らしの知恵を教わったり、この時期の行事などについても教えてもらっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族様との会話を行い、お気持ちに寄り添いながらご本人様の日々の様子や出来事などを共有したり、ご家族様にご相談させていただいたり一緒に考えたりして共にご利用者様を支える環境作りをしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防のため直接の面会はできないが、リモートや窓越しでの面会を行い、知人の方とお会いできる機会を設けている。	過去には利用者の友人が面会に見えていたが、現在は外部の人と交流のある利用者はいないとのこと。また、馴染みの場所として温泉の名前を話される利用者があるとのこと。キーパーソンに馴染みの人や場所をきかせていただき、コロナが落ち着いた際は気分転換を兼ねて外出の機会を設けたいとのこと。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席について利用者様同士の距離が近すぎてお互い干渉しストレスにならないような配置にしたり、認知症状にも個人差があるので、重度の方に対して他の方から非難されることのないよう日ごろから職員が利用者様全員に対して尊厳を尊重する対応を心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様と連絡をとり、状況の把握や相談などに応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まだ不慣れな状況であるが、課題整理総括表を活用してご本人様の思いや意向の把握に努めている。言葉での表現が困難な場合は行動やしぐさや表情を観察し思いが少しでも把握できるよう努めている。	課題整理総括表を用いて利用者の悩みや困り事の原因を探って、ニーズや意向を収集しているとの話を伺いました。意思表示の困難な利用者には、ミーティングや申し送りの中に記録された行動の様子を職員間で共有し、統一した対応をとるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報を収集し把握しているが、入所されるまでご家族様とは離れて独居のかたもいらっしゃるため、それまでの担当であったケアマネや他に状況を把握していらっしゃるかたから情報収集するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まだ不慣れな状況であるが、課題整理総括表を活用してご本人様の心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の状況を確認し、変化があった場合その都度職員で状況を把握し適時担当者会議を開催し気づきや対応すべき点などの意見を出し合い、ご本人様やご家族様と相談しながら必要時プランの見直しを行っている。	利用者を担当する職員とケアマネによるアセスメント・モニタリングを経て介護計画が作成されています。また、担当者会議には併設の老健施設の看護師がケースによっては加わり、意見を頂いているとのこと。日頃の運動の成果から歩行状態が良好になり、ケアプランが変更されたケースがあったとの話を伺いました。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子やケアの実践・結果については個別記録に記入しているが、気づきやケアに対しての提案などについては、個別記録と申し送りのノートにも記入して共有を行い、介護計画の見直しやケアの実践に役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の支援を行っている。併設施設の協力を得ながらサービスを限定せず多機能に対応できるようにしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設の医師がかりつけ医になっている利用者様は訪問薬局が来所されるので、お薬に関する相談などを行っている。毎週水曜日に訪問歯科が来所され口腔内のケアと治療を受けている。治療についてご家族様と相談を行っている。毎月訪問理容が来所され、利用者様全員散髪され清潔な状態を保たれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の希望されているそれぞれのかかりつけ医に診て頂いている。受診の際は現状を記入した書類をかかりつけ医にお渡し、連携をとりながら病状の把握に努めている。	入居の際には、かかりつけ医の継続をお願いしているが、家族の希望により事業所の主治医に替えているケースもあるとのことです。かかりつけ医受診の際は、事業所から利用者の様子を手紙にして家族に渡しています。また、身体の状態の悪い利用者には職員が付き添い対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から併設施設の看護師と連携をとり、異変が見られたときはすぐに状況を報告し支援を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際は、医療ソーシャルワーカーに連絡をこまめに行いどのような状況になっているのか？入院期間がどれくらいかかるか？の情報収集を行うと共にご家族様ともこまめに連絡をとり、退院時に支援を行っている。病院関係者との関係づくりは現状では行っていない。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居される際にあらかじめご家族様にご意向を確認し、当施設で対応できるケアについての説明を十分に行っている。方針が決まればチームで共有していく。重度化して医療が必要な場合は、ご家族様のご意向に添えるよう支援を行っている。	看取り介護の体制は整っていない為、入所の際に、重度化された場合には次の入居先を予約した上での転居をお願いしているとのことです。過去には状態が重篤された利用者に対して、特例により主治医の援助を受けながら看取りをおこなったケースがあるとの話を伺いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを用意し、日ごろから職員がマニュアルを読み込み、急変時の行動について把握している。急変時は併設施設の看護師も応援に入る。急変時の対応についての研修も受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、日ごろから職員の目につくところに掲示している。併設施設と合同の避難訓練と浸水を想定した防災訓練を行っているが、本年は感染症予防対策の為、災害時マニュアルを読み上げて避難方法について職員間で改めて確認を行った。	事業所は水害の危険区域になっているとのことで、水害を想定した垂直避難訓練が行われています。避難訓練は併設の老健職員と合同で行い、エレベーターが使えないことを想定した人力による利用者の避難誘導が行われています。避難にはマンパワーが必要であり、休日の職員の協力もお願いしているとのことです。	災害時における高齢者施設の避難には多くの人出が必要になります。地域のマンパワーの協力が得られるよう、災害時にはお互いに協力し合う約束事を自治会と交わしておくことで、安心・安全が担保されるかと思いがいかがでしょうか。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は尊厳ある人として真摯に向き合い、名前に「ちゃん」付けでお呼びするのではなく、苗字に「さん」付けでお呼びする。トイレや脱衣所ではドアを閉めてから脱衣を行うなどの対応を心掛けている。	利用者から苗字で呼んでほしいとの希望から苗字に「さん」付けにされた経緯があったとのことで、利用者の尊厳に向き合う姿勢が表されていると思います。プライバシーでは、トイレのドアや居室の入口の開閉には注意を払っている、との話を伺いました。利用者に見られる受け入れがたい習慣には否定しない声掛けを心がけているとの話を伺いました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから職員は利用者様の会話に耳を傾け、思いやご希望されていることをお話しされたら傾聴し、職員全員で共有している。お話を傾聴するときは笑顔を見せたり姿勢を低くするなどして話しやすい雰囲気作りに努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「午後からはテレビじゃなくて部屋でラジオを聴いている。」「花の水やりをする。」「廊下を歩いてくる。」「洗濯物たたむよ。」など、その時の希望で過ごされている利用者様がいらっしゃるので支援させていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替えの用意の時は、ご自身で着替えの服をご用意して頂いている。月一回訪問理容が来られるので、ご自身の希望の髪型にしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを利用者様をお願いしてホワイトボードに書いて頂いている。メニューを読み上げると「楽しみだね。」と笑顔が見られる。ご飯の盛り付けを利用者様をお願いしている。昼食はグループホームで調理しており、利用者様に食材を切っていただいたり盛り付けをお願いしている。	業者からの食材を皆で作るとの考えから、利用者職員が出来ることを担いながら食事作りをしています。利用者の中には昔のことを思い出すかのように手際よく調理されている方がいるとのこと。レクリエーションで行う畑作業では、収穫したサツマイモやじゃがいもを調理することで、食べる喜びを感じてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の飲水量を記録し共有しながら、1日に必要な水分量がきちんと摂れているかを確認している。水分量が少ない方は水分ゼリーを提供している。コーヒー牛乳を提供し利用者様に喜ばれている。毎週水曜日に訪問パン屋でパンを購入し3時に頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に自ら口腔ケアをされる方は仕上げで歯間ブラシのケアを職員が行っている。他の利用者様は言葉かけにて実施。義歯の方は夕食後にポリドント実施。歯磨きを嫌がってしまう方はうがいをして頂いている。毎週水曜日に訪問歯科にて診てくださっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃から排泄の様子についてチェック表に記録して排泄の間隔を確認して言葉かけを行い、トイレへ誘導しなるべく自立での排泄ができるよう言葉かけを行っている。	排泄の自立に向けて、ご自身による上げ下ろしができるようになること、できるところまでの折り合いの中で支援しているとの話を伺いました。夜間の排泄支援では、ポータブルトイレの利用や人感センサーの活用によるトイレ誘導等、安全に配慮した支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の間隔を確認し、排便日が近い方は腹部の膨らみがないか？などの確認を行い水分量の確認も行っている。水分量の少ない方は水分ゼリーを提供したり、コーヒー牛乳を提供して水分量を増やすようにしている。廊下の歩行や体操も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のご意向があり、週3回入浴日を設けている。現在全員が歩行可能な方ばかりなので、グループホーム内の大きな浴槽に入っている。お一人でのんびりと入浴される方や、お仲間と一緒に入浴されおしゃべりを楽しまれる方などご自由に入浴を楽しんでいただけるよう支援を行っている。	週3回入浴は火・木・土曜日に設定し、木・土曜日は女性が先で火曜日は男性が先に入浴されています。個浴の設備になっていない為、複数の利用者が入浴されていますが賑やかで楽しそうな雰囲気とのこと。女性職員が多いので、異性介助になっているとの事です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については、休みたいときに居室で休んで頂いている。昼食後に休息の言葉かけを行うが強制ではなく休む方は居室へ戻られている。夜間は安眠できるよう、居室の明るさや温度調節や、遅番と夜勤の申し送りを小さい声で行うなどの配慮をしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム甲西**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のお薬の説明書を個々にファイルして職員で情報共有している。薬の副作用についても把握し薬の変更があった時には申し送りノートに記載し周知徹底を行っている。服薬を行う際は利用者様が確実に飲み切るまでその場から離れず様子を見守るようにし、副作用が現れていないか様子観察している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍前までは、訪問パン屋が来所すると利用者様と職員が同行してパンの購入に出かけることを楽しみにしていた。現在は感染症予防のため注文されたものを代理で職員が購入している。他に掃除や洗濯物たたみなどを行っていたり、調理に参加されたり、畑仕事に参加される方もいらっしゃる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、春先にふれあい公園まで全員でドライブに出かけて桜の花を見物したり、記念写真を撮影された。秋も紅葉見物を予定していたが、感染症が拡大してしまい、外出が出来なかった。その前の年は秋にお弁当を持って伊奈ヶ湖の紅葉見物に出かけたが、利用者様全員大変喜んでくださった。感染症がある程度収束されたら外出の支援を行ってきたい。	自己評価にあるようにコロナ禍を背景にほとんど実施されていないとことです。コロナ感染の落ち着きをみて、事業所建物を周回するコースの散歩を実施したいとの話を伺いました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いをお預かりし、ご本人様が必要としているものを購入したり、パンの購入をしている。感染症予防のため、利用者様とともに買い物に出かけることは困難だが、感染症がある程度収束したら買い物の支援も行っていきたい。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてスタッフが付き添い電話をされている。お手紙は毎月職員が状況をまとめたものを作成しご家族様へお届けしているが、利用者様ご自身でお手紙が書けるかには書いて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花のプランターを飾り、廊下には利用者様みんなで作った貼り絵の作品を展示している。皆様がくつろぐホールは窓の障子を開けて外の景色をご覧になっていた。季節を感じて頂いている。居室は利用者様がいられてもよいように、夏は涼しく、冬は暖かく過ごせるようにエアコンで温度調整している。居室の照明も就寝時に全消灯の方や常夜灯の方などそれぞれ対応している。	歩行器を利用されている方が3名いらっしゃるが、歩行の妨げにならないよう通路や家具の位置が配慮されているとの話を伺いました。コロナ感染に注意した環境作りには配慮していますが、風通しが良く寒いとの苦情をいただくため、衣服の調整に苦慮されているとことです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃の利用者様同士の関わりを観察し、お互いに居心地よく過ごせるように食席の配置に気を配っている。ホールだけでなく、玄関側にも椅子やソファを設置してお好きなところで過ごせるように配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設施設と同様のベッドやタンスなどの家具が設置されているので、ご家族様が自宅で過ごされていた時の愛用されていたものなどを身近なところに配置したり、ご家族様の写真を置いたり、ご本人様が作成した塗り絵などの作品を飾るなどしてご本人様が心から安らぐことができる空間になれるように努めている。	入居時にはご自身の輝いていた時の写真やアルバム、記念の盾等を持ち込まれているとことです。また、使い慣れた棚を持参している方もいます。夜間ゆっくり休めるよう周囲の音や灯り、暖房が快適な状態になっているか、職員による配慮がなされています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の洗面台に歯ブラシ、歯磨き粉、タオル、ブラシを用意してご自身で整容がしやすいようにしている。入浴時も着替えをカゴに用意して他の利用者様と間違えないようにすると、カゴから着替えを出して自ら着衣ができるように支援している。調理時に包丁を使用する時は刃先の丸いものを使用し、職員が見守りを行っている。			